

えひめ国体の概要と開催に向けての取り組み

愛媛県企画振興部国体準備局国体準備課

1 国体とは

国体は、2万人以上の選手や監督が参加する国内最大のスポーツの祭典であり、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地域のスポーツの振興と文化の発展に寄与し、国民生活を明るく豊かにすることを目的として開催されています。その歴史は古く、戦後間もない昭和21年に京都を中心とした京阪神地域で開催されて以来、毎年各都道府県持ち回りで開催されており、日本体育協会、文部科学省及び開催地都道府県の三者共催で行われています。

平成29年に本県で開催される第72回国民体育大会は、昭和28年の四国4県での合同開催以来、実に64年ぶり2回目の開催であり、初の単独開催となります。

2 えひめ国体開催に向けてのスケジュール

本県の国体開催に向けた動きの始まりは、平成11年の12月定例県議会における加戸前知事の「早期国体誘致の表明」、平成12年の2月定例県議会における「早期国体誘致の決議」までさかのぼります。その後、市町村や競技団体への国体開催についての説明、県議会における「国体招致」に関する決議を経て、平成16年に、日本体育協会及び文部科学省へ「国体開催要望書」を提出し、同年の日本体育協会理事会で、開催申請書の提出順序が承認され、本県での国体開催が内々定しました。これを受け、翌年の平成17年には県内各界各層の代表者の参画を得て、国体開催準備の推進母体となる「第72回国民体育大会愛媛県準備委員会」を設立し、本格的な開催準備を開始しました。その後、県準備委員会では、大会開催方針の決定、国体開催基本構想の策定、施

設、競技、広報・県民運動、宿泊・衛生、輸送・交通などの各専門分野における基本方針・基本計画の策定、競技役員の養成支援、国体実施競技の会場地の選定などに取り組んできましたが、この度開催準備の大枠が決まったことから、本年6月に「国体開催申請書」を日本体育協会及び文部科学省へ提出し、7月の日本体育協会の理事会で申請書の内容が審議承認され、開催内定となったところです。今後、平成26年度に開催決定を受け、平成28年度からのリハーサル大会を経て、平成29年度の本大会を迎えることとなります。

3 えひめ国体の目指すところ

平成17年に決定した「第72回国民体育大会開催方針」及び本年1月に策定した「第72回国民体育大会開催基本構想」において、「手づくりの国体」、「実になる国体」、「身の丈にあった国体」、「ふれあいの国体」、「愛媛らしさあふれる国体」の5つの理念を掲げております。この理念のもと、これまで先人が築き、我々が受け継いだ歴史や伝統、優れた県民性を礎としつつ、愛媛の未来を拓くため、県民全ての参加と協力を得て、県民がふるさと愛媛に誇りを持ち、愛媛の魅力を全国に発信する晴れやかな大会を目指すこととしています。

4 具体的な取り組み

(1) 開催競技

えひめ国体では、各都道府県の代表選手が天皇杯・皇后杯の獲得を目指して実施する「正式競技」のほか、「特別競技(高等学校野球)」、「公開競技」、県民が参加する「デモンストラーションスポーツ」が実施されます。正式競技、特別競技及び公開競技42競技のうち、39競技を県

内19市町の会場で開催するほか、3競技を県外で開催することとしております。また、デモンストレーションスポーツについては、現在、県内種目団体に対して実施の呼びかけを行っているところです。

(2) 施設整備

各競技の実施会場となる競技施設については、既存の施設を最大限活用し大会の簡素化に努める方針のもとで、計画的に整備を進めています。県総合運動公園においては、陸上競技場で総合開・閉会式を執り行うほか、陸上競技・体操・テニス・弓道の4競技が実施されることから、平成23年度に改修工事に着手し、今年度から本格的な工事に取りかかっています。また、市町等有する競技施設の整備についても、その取り組みを促進するため、今年度、市町の整備に対する県の補助制度を創設したところです。

(3) 競技役員等の養成

国体では、一定の資格を有する審判員や運営員の確保が必要不可欠であることから、県競技団体と連携しながら年次計画を作成し、平成22年度から開催年までの8年間で計画的に競技役員等を養成することとしております。

(4) 広報活動

開催内定という大きな節目を迎えた今年度から、えひめ国体の県民への周知と国体開催気運を盛り上げるため、広報活動に積極的に取り組んでいます。具体的には、公募により、えひめ国体の愛称を「愛顔^{えがお}つなぐえひめ国体」に、スローガンを「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」に決定するとともに、県のイメージアップキャラクター「みきゃん」を国体仕様にアレンジして活用することとし、着ぐるみを製作し各種イベントに参加させるなど、えひめ国体の認知度を高めるための取り組みを行っています。また、7月から8月にかけて、県内東・中・南予3会場でパネル展を開催したほか、9月2日には、えひめ国体開催内定記念イベント「いよ伊予 GO! 国体 えがおフェスタ」を開催しました。さらに、えひめ国体のホームページ (<http://www.ehimekokutai2017.jp/>) の運用の開始、うちわ等啓発グッズの作成・配布や内定を祝う広報看板やのぼり旗の設置などに取り組んでいます。将来的には、えひめ国体のイメージソングやダンスを制作するなど、多様な手法を用いながらえひめ国体の開催を県内外に広く浸透させていきたいと考えています。

(5) 県民運動

えひめ国体を成功に導くためには、より多くの県民の皆さんに、様々な形で自発的に国体へ参加、協力していただくことにより、県民全体で感動や夢、希望を分かち合える国体となるよう県民総参加で取り組むことが重要と考えています。このため、遍路文化によって培われ、愛媛県民が大切に受け継いでいる「お接待」の精神を活かし、県民の皆様、大会ボランティアとしての協力、環境美化活動やあいさつ運動への参加、スポーツ活動への参加や応援、国体募金による支援など様々な形で国体に関わっていただく、県民運動の推進にも積極的に取り組んでいく予定です。

5 「愛顔^{えがお}あふれる愛媛」の実現に向けて

えひめ国体まで残りちょうど5年となりました。今後、ますます開催準備が具体化し、増大してまいります。えひめ国体開催で得られた成果を県勢発展のための大きな財産として受け継ぎ、前向きな気持ちから生まれる笑顔と、お互いを支え合う思いやりから生まれる愛とが結実した『愛顔(えがお)』があふれる愛媛の実現を目指し、県民の総力を結集して開催準備に取り組んでまいりたいと考えております。

皆様方の御協力、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

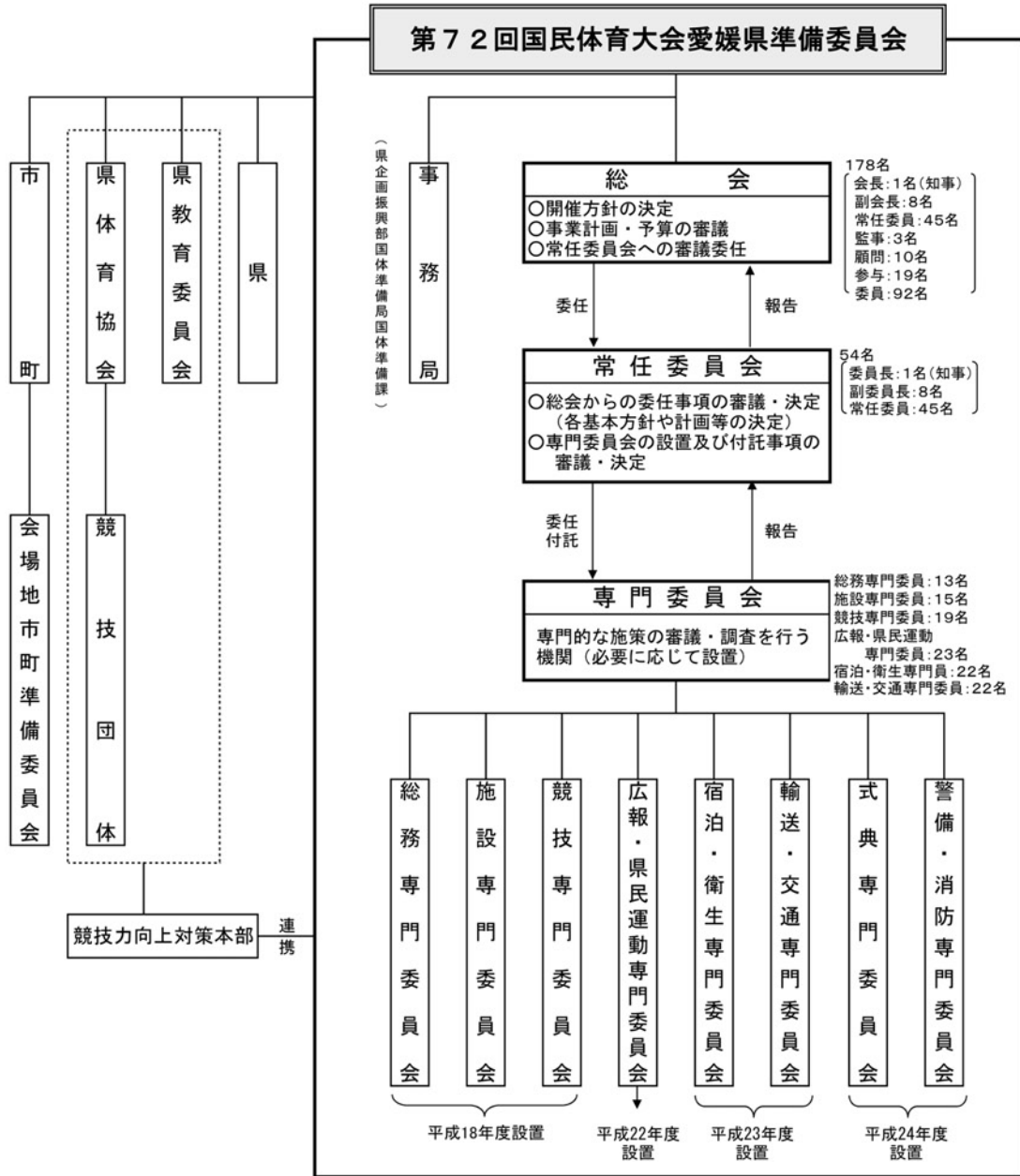
えひめ国体開催準備スケジュール(予定)

(平成24年8月現在)

| 逆年 | 年度 | 手続き | 組 織 | | 主 な 業 務 |
|------|---------------|--------------|-------------------------|--|---|
| | | | 県 | 準備(実行)委員会 | |
| 14年前 | H15 (2003) | | 国体準備係の設置 | | 市町村及び競技団体事務担当者説明会の開催 |
| 13年前 | H16 (2004) | 内々定 | | | 合併後市町に対する取組み状況及び体育施設等調査 |
| 12年前 | H17 (2005) | | | 国体準備委員会設立発起人会開催 ↓ 国体準備委員会設立 市町・競技団体連絡会議 | 国体準備の本格的実施 |
| 11年前 | H18 (2006) | | 国体準備室の設置 | 総務、施設、競技専門委員会の設置 | 会場地市町の選定 ↓ 第一次内定 |
| 10年前 | H19 (2007) | | 競技力向上対策本部の設置 | | 第二次内定 |
| 9年前 | H20 (2008) | | | 市町連絡会議 | 第三次内定 |
| 8年前 | H21 (2009) | | | 市町連絡会議 | 第四次内定 |
| 7年前 | H22 (2010) | | | 市町連絡会議 各専門委員会の順次の設置 ○広報・県民運動 | 県総合運動公園基本設計 ↓ 県総合運動公園実施設計 |
| 6年前 | H23 (2011) | 開催に関する県議会の決議 | 国体準備課の設置(知事部局へ移管) | 各専門委員会の順次の設置 ○宿泊・衛生 ○輸送・交通 会場地正規視察(中央競技団体) 国体開催基本構想の策定 | 施設整備計画策定 ↓ 市町施設整備費補助要綱制定 |
| 5年前 | H24 (2012) | 内定(7/11) | 国体準備局の設置 国体開催申請(6/1) | 各専門委員会の順次の設置 ○式典 ○警備・消防 | 市町施設整備(整備費補助) ↓ 県総合運動公園改修 |
| 4年前 | H25 (2013) | | | 順次、市町国体準備委員会の設立を検討 | デモスポ・公開競技 ↓ 競技役員等の養成 ↓ 広報活動・県民運動 ↓ 宿泊・衛生及び輸送・交通対策 |
| 3年前 | H26 (2014) | 決定 | | 会場地総合視察(日本体育協会・文部科学省) 国体実行委員会の設立 | 市町国体実行委員会の設立 |
| 2年前 | H27 (2015) | | | | 準備体制の順次拡充 |
| 1年前 | H28 (2016) | | | | リハーサル大会 |
| 開催年 | H29 (2017) | | | | 第72回 国民体育大会の開催 |

※このスケジュールは、準備の進捗状況に合わせて改訂する。

第72回国民体育大会愛媛県準備委員会組織図



- 総会** — 大会開催に係る根幹的事項の審議・決定を行う最高機関
 開催基本方針、会則の制定、事業計画、予算・決算、常任委員会への委任事項等
- 常任委員会** — 実質的な施策の審議・決定を行う機関
 総会から委託された事項（開催基本計画、会場地市町・実施予定競技の選定等）について審議決定、専門委員会の設置及び付託事項等
- 専門委員会** — 専門的な施策の審議・調査を行う機関（必要に応じて設置）
 常任委員会から委任・付託された専門的事項について審議・調査
- ・総務 — 総合計画、開催方針、会場地市町の選定等
 - ・施設 — 施設整備方針、施設基準、競技会場の選定等
 - ・競技 — 実施競技選択方針、運営計画、競技役員養成、用具の整備等
 - ・広報・県民運動 — 広報基本方針、県民運動基本方針、テーマ、マスコットの制定等
 - ・宿泊・衛生 — 宿舎・配宿、食事・弁当、医療救護対策、防疫、食品・環境・馬術衛生等
 - ・輸送・交通 — 全国輸送、総合開閉会式の輸送、競技会場の輸送等
 - ・式典 — 総合開閉会式の運営・演技・音楽、大会旗・炬火リレーの計画等
 - ・警備・消防 — 総合開閉会式の警備・消防防災等
- 競技力向上対策本部** — 競技力向上に関する年度事業計画の策定及び事業の実施等

第72回国民体育大会開催基本構想の概要

1 策定にあたって

- 国内最大のスポーツの祭典である国体が、本県では64年ぶり、初めて単独で開催されることから、多方面にわたる準備作業を計画的に進めていく必要がある。
- 国体の原点を踏まえて、勇気、元気、明るい希望にあふれ、私たちの気持が東日本大震災の被災者の皆様とともにあることを示す大会にしていきたいと考えている。
- 基本構想は、大会の基本目標とその実現のための取組の方向性や考え方を明らかにし、大会の準備や運営のよりどころとなるものである。

2 国体開催の意義

- 全国トップレベルの競技に触れることで、次代を担う子どもたちに夢やあこがれ、希望を与える。
- 多くの県民がスポーツを暮らしのパートナーとして楽しみ、心身の健康増進、家族・友人との絆を深める契機となる。
- 本県のアスリートの活躍が、県民の誇りとなり、県内で育ったアスリートを全力で応援することで、県人であることの喜び、地域への愛着と帰属意識が高まる。
- 県民の誰もがスポーツに親しみ、スポーツが共通の話題として地域が盛り上がることで、地域のコミュニティの再生、創造が図られるとともに、全国から訪れる人々との交流を通じた地域の活性化が期待される。
- 愛媛の自然や歴史・文化など、本県ならではの魅力を全国に発信することで、地域ブランドなど本県の認知度を上げ、観光・宿泊客数の増加や県産品の販路拡大など、地域経済の発展へ寄与することが期待される。
- 遍路文化によって培われた「お接待」に見られる「他人を思いやる愛」で県民が一つになり、愛媛県民としての誇りをもって大会を成功に導くことを目指す。

3 5つの理念

手づくりの国体・実になる国体・身の丈にあった国体
ふれあいの国体・愛媛らしさあふれる国体

4 3つの基本目標

| 基本目標1 県民総参加で 「えひめ」の底力を発揮する | 基本目標2 スポーツで 活力あふれる「えひめ」を創る | 基本目標3 知名度アップで 「えひめ」の魅力を輝かす |
|---|---|---|
| 県民一人ひとりが様々な形で結びつき、あらゆる力を結集して、みんなで感動や夢、希望を分かち合える国体の開催を目指す。 | 県内のスポーツ水準や県民のスポーツへの参加意欲を高め、様々なスポーツの効用を通して、力がみなぎる人づくり・地域づくりを進める。 | 来県した方々と県民との心温まるふれあいや交流といった、愛媛の魅力にふれる機会を大切にするとともに、ふるさと愛媛のすばらしさを全国に発信して、愛媛の魅力にますます磨きをかける。 |
| ① 県民運動の推進 ② 大会ボランティアの育成 ③ 効率性の高い大会の開催 ④ 既存施設の有効活用 ⑤ 県内全域で競技会を開催 ⑥ 開催県としてふさわしい成績の獲得 ⑦ 国体ひめっこスポーツ大使の任命 ⑧ 環境への負荷の少ない大会の運営 | ① 地域に根ざしたスポーツの振興 ② スポーツに参加する機会の充実 ③ 競技力向上対策の推進 ④ 次代につながるジュニア選手の育成 ⑤ 全国障害者スポーツ大会との連携 | ① 全国から訪れる人々との交流の促進 ② 愛媛の記憶が残る大会の運営 ③ ふるさと愛媛の魅力をPR ④ 地域の一体的な取組を通じた住民参加のまちづくり ⑤ 積極的な広報活動の実施 |



えひめ国体正式・特別競技・公開競技 会場地市町内定配置図【平成24年8月現在】

